

第1回 福祉職等向け「医療的ケアを必要とする子どもの支援」研修会 実施報告書

- 1. 開催日時** 平成29年12月3日（日）9：30～15：40
- 2. 会場** 神奈川県総合医療会館
- 3. プログラム**
- (1) 新生児医療と小児在宅医療の現状（講師：神奈川県立こども医療センター 患者家族支援部 星野 陸夫）
 - (2) 医療的ケア児 ～医療的ケアと家族の状況～ （講師：同上）
 - (3) 重症心身障害児 ～障害児の発達と障害の受容～ （講師：神奈川県立こども医療センター 重心施設長 井合 瑞江）
 - (4) 障害児の退院支援 ～病院における退院支援～ （講師：神奈川県立こども医療センター 退院・在宅医療支援室 安西 智子）
 - (5) 障害児の家族支援 ～病院MSWが行っている家族支援～ （講師：神奈川県立こども医療センター 医療福祉相談室 丸山 佳子）
 - (6) 障害児の生活支援 ～障害児のための制度・サービス～ （講師：風祭の森 太陽の門福祉医療センター地域支援課 大友 崇弘）
 - (7) 合同討議 ～質問の共有（発表なし）～
 - (8) 質疑

4. 受講者数 59名

5. 受講者内訳

・職種別 ※複数回答有（人）

職種	人数
看護師	14
相談員 /支援員	14
保育士	5
PT・OT・HE	6
SW・CW・CN	8
保健師	1
事務	5
教員	1
その他	5

・勤続年数 (人)

～3年	3～9年	10年～	未回答
27	13	15	2

・勤務先所在地 (人)

横浜市	川崎市	大和市	座間市	厚木市	秦野市
12	15	5	2	3	1
平塚市	茅ヶ崎市	藤沢市	鎌倉市	横須賀市	未回答
1	3	2	2	10	1

6. アンケート集計結果（配布数：59 回収数：57 回収率96.6%）

(1) 直近1年間に、医療的ケアを必要とする18歳以下の子ども（以下、医療的ケア児）と関わったことがあるか。

※間接的な相談支援等を含む

→ある・・・49人

…平均年間件数 10件

分布 (人)

～9件	10～19件	20件以上	未回答
24	10	9	6

→ない・・・7人

…関わっていない理由（複数回答有）

- ・医療的ケアに関する知識がないため 1人
- ・勤務先の方針として受入れていないため 3人 →内訳）成人のみを対象としているため：1人
医療的ケア児受入を行っていない：2人
- ・そうした子どもと関わる機会がないため 1人
- ・漠然とした不安があるため 1人
- ・その他（福祉計画等制度面で担当のため） 1人

(2) 研修会への参加理由（複数回答可）

(人)

- ・医療的ケア児と関わった経験があるため
- ・将来的に、医療的ケア児と関わっていききたい気持ちがあるため
- ・勤務先が今後、医療的ケア児の受入を検討しているため
- ・その他

38
11
7
20

- (多数意見)
- ・医療的ケア児を取り巻く社会情勢・現状を知りたいため。
 - ・福祉全体の流れとして今後、医療的ケアも含めた支援の必要性を感じているため。
 - ・福祉職向けであったため。
 - ・医療者の視点を少しでも知ること、医療と福祉の協働体制を組みやすくなればと思ったため。
 - ・職場で受け持つケースが多様化しており、知識を深めて生かしていきたいと思ったため。

(人)

(3) 各プログラム内容について

- ①「新生児医療と小児在宅医療の現状」について、興味をもてた。
- ②「医療的ケア児と家族の状況」について、興味をもてた。
- ③「重症心身障害児の発達と障害の受容」について、興味をもてた。
- ④「障害児の病院における退院支援」について、興味をもてた。
- ⑤「障害児へ病院MSWが行っている家族支援」について、興味をもてた。
- ⑥「障害児の生活支援（制度・サービス）」について、興味をもてた。
- ⑦ 合同討議において、医療的ケア児に関する不安や疑問を共有できた。

はい	どちらとも いえない	いいえ	未回答
57	0	0	0
57	0	0	0
53	4	0	0
55	2	0	0
51	4	0	2
47	5	1	4
36	4	1	16

(人)

(4) 研修会を終えて

- ① 医療的ケア児との関わり方について、イメージがもてた。
- ② 今後医療的ケア児に関わる機会があれば、前向きに考えていきたい。
- ③ 今回の研修内容の難易度について、どのように感じたか。
- ④ 今後、受けてみたい研修会のテーマや内容の希望（自由記載）

はい	どちらとも いえない	いいえ	未回答
52	2	0	3
53	1	0	3
4	46	4	3

(難しい ちょうど良い 易しい)

(多数意見)

○医療・福祉・教育の地域連携

- ・特に医療職（主治医等）との連携を築くための工夫について。
- ・退院前カンファをはじめとする多職種カンファについて、より有効・有益なものにするための工夫について。
- ・地域包括ケアシステムの今後の展開について。

○医療的ケアの実践

- ・福祉職でもできる重心の嚥下・摂食や、側弯、呼吸管理（喀痰吸引等）、発作時の対応などについて。
- ・緊急蘇生法、緊急時の対応、リスクマネジメントについて。
- ・地域の施設看護師を対象に、「病院でどのように保護者への退院指導（実技）を行っているか」を講義。
(患者家族から説明してもらおうが、実際の指導を見たことがなく、うまくイメージができてないため)

○障害児者を取り巻く制度・サービス

- ・小児在宅を支える制度・サービスについてより詳しく。成人移行による窓口の変化等も含む。

○障害児者とその家族の支援

- ・障害児の意思決定について。
- ・きょうだい支援や患者・家族の心理的ケアについて。

(5) 医療的ケア児の地域生活に関して、行政からどのような支援があったらよいか。

(多数意見)

○現行制度の見直し

- ・医療的ケア児が付き添い不要で学校登下校ができる制度の構築。

○自施設の運営に対する補助・支援

- ・算定方法の見直し…
 - ・福祉施設における重心加算要件のハードルを下げ、看護師配置だけでも加算可能とする。
 - ・重心児のキャンセル加算単価を上げる。（キャンセルが多く、施設の負担になっているため）
 - ・医療的ケア児利用による事業所加算の市町村格差の解消。
 - ・重心児の施設入浴についても算定対象とする。
- ・人材確保・育成 …
 - ・福祉施設職員を対象に、医療的ケア児受入体制構築のための研修の実施。
 - ・小規模施設でも医療的ケア児が受け入れられるような、県（公的）マニュアルの作成。

○医療的ケア児が利用できる福祉サービスの充実・情報提供

- ・ｽﾏｰﾄﾌｫﾝや入浴サービスについて、医療的ケア児受入可能な事業所/施設/病院/学校の数を充実させる為の支援や補助。
- ・医療的ケア児が利用できるサービスの情報の提供（成年移行～成人期も含めてわかる、家族向けパンフ等）
- ・家族の経済的負担を少しでも軽減するため、無料サービスの提供。（医療ボランティアの派遣等）

○地域の医療・福祉・教育をつなぐコーディネーターの養成

- ・成人におけるケアマネのような役割を担うコーディネーターの養成により、地域で医療的ケア児を支えていける体制作り。
(患者が住む地域において、ライフステージの変わり目にも切れ目のない支援の提供を可能にする。)

(6) 感想・自由意見

○感想

- 各講演時間が短すぎず長すぎず、集中し易く、また、事例や写真、映像を多く盛り込んでいたため非常に分かり易かった。
- こども医療センターについて、また、重心児についてよく知ることができた。
- こども医療にかかっていた方に地域でよくお会いするが、地域に出てくるまでにどんな支援を受けてきたのかを知れる良い機会になった。
- 医療的ケア児の支援においては困難が多く、上手く寄り添う自信がなかったが、寄り添えないと思いつくのではなく、地域において医療的ケア児の支援に関わる一員として、チームで支えていけば良いのだと思うことができた。
- 放課後デイサービスで医療的ケア児を受け入れたいという思いは常にあるものの、こどもの安全面を考えると足踏みすることがあるが、本日の講義で後押しされた感がある。
- 行政・医療・福祉の連携において、互いに噛み合わないことが多々あり難しさを痛感している。しかし本日の研修に参加し、「ケア児や家族がより良い生活を送るためにどんな支援が必要か」を考え、これからも仕事をしていこうというパワーを分けていただけた。
- 本当の意味での医療と福祉の連携がシステムとして構築されることを期待しているし、自分自身も学び続けたいと思う。
- 相談支援専門員だが、担うべきことが行き届いていないと感じた。病院との連携の難しさを感じるため、互いに歩み寄りができたら良い。ただ医療面では分からないことが多いため、歩み寄る際には、自身の勉強も必要だと思う。本日はそれらの良いきっかけとなった。
- 看護師だが、制度やサービス等について研修等を通して学習し、家族に寄り添えるよう努力したいと思った。
- 質問が多くでたという点で、福祉の現場で皆困りごとが多いのだろうと感じた。
- 多職種の講師から、それぞれの立場からのお話をきくことができて良かった。
- 今回の講義では保護者の方の思いを具体的に知ることができ、また、寄り添うことが大切なのだと学べてよかった。
- こどもの気持ちを的確にとらえられていないのでは…と日々悩んでいる。言葉ではないサインというのを、自分も感じ取っていききたい。
- 本日の講義、そしてご紹介していたブログや本等も参考にさせていただき理解を深め、視野を広げて支援していききたい。
- 「福祉のことや、在宅に移ってからは分からない」とご発言されていたが、医療の方にも積極的に福祉や在宅の現場を知ってほしいと思うし、福祉関係者も医療のことを学んでいきたいと思います。また同時に、かかえこまず、各専門職に相談していく大切さも学んだ。
- 病院で働く先生方や家族・在宅移行支援を担う方の話を聞き、福祉・行政ももっとできることを考えていく必要があると感じた。
- ご家族にとって、病院から地域生活に戻るときにどんなサービスや制度があるのかもわからず、どれだけの不安を抱えているのかを改めて感じた。福祉分野の立場から、ご家族が少しでも安心でき、地域での生活を送れるよう向き合っていきたいと感じた。
- 重心児に向けてのサービスの充実、コーディネーター育成等、医療的ケア児を取り巻く現状の課題を改めて実感、整理することができた。
- 在宅医療相談窓口（支援者向け）を案内いただいたので、利用してみたい。
- 医療的ケア児が、たくさんの選択肢の中で生活できるような環境になればと願うし、様々な施設・職種で協力していききたい。
- 放課後デイサービスで医療的ケア児の利用相談を受けるが、受入には繋がっていない。できる範囲で前向きな受入を検討していききたい。
- 医療的ケアに関する知識が不十分であったが、今回の研修で在宅療養で配慮する点を学ぶことができた。連携というキーワードも多く出てきたが、地域で顔の見える関係を日頃から作っておくことが大切だと思う。また、リスクマネジメントを考えておく必要性も感じた。

○意見・要望等

- こども医療における退院支援のフローがわかりとても有難かった。
受け入れる立場である地域側としては、福祉も行政も医療的ケア児の対応に際しては時間がかかるため、まず退院支援の第一段階から、地域の福祉・行政を巻き込んでいただきたい。地域合同カンファで初顔合わせでは遅いため、退院前から、地域に戻すための病院のプロセスを知っておいた方が地域の支援者がより動きやすくなると思う。
- 正直、福祉の現場レベルではこども医療の方に質問相談することは敷居が高いため、地域向けに、開かれた催し事を今後も企画してほしい。
- 医療・福祉・教育は分断されていると感じる。特に医療的ケア児のはスクールバスに乗れない、卒業後の行き場がない等の課題や、軽度の障害児も、就学を機に療育センター通園が終了し、支援がとぎれてしまう等、課題は多い。今回の研修のように、医療と福祉の相互理解を深める機会は、ぜひ今後も増やしていただきたい。
- 貧困層の支援が見えづらかった。受入れた病院から、児相へ通告といった手段も考えられるが、可能なのか。
- 相談支援専門員であるが、今後、カンファレンスや支援会議の開催時には、病院にも声をかけていききたいと思う。本日のお話を聞き、病院へ気兼ねなくどんどん聞いても大丈夫かもしれないと思えた。
- 障害児の生活支援（制度・サービス）の講義について、より時間を割いてほしかった。
- 講義の時間が短いと感じた。
- 合同討議においてグループごとに事例検討など、テーマがあってもよいと思った。（医療に特化しすぎない内容で）
- 合同討議の時間をもっと長くとっていただけると、交流から支援のネットワークにもつながると思う。実際に本日、他事業所へ見学に行く約束をとることができた。
- 今回のような研修を、各市ごとにも複数開催していただけると、県全体で支援者側の情報共有や意識向上につながっていくのではないか。
- こども医療には、地域社会資源の開発にも助言をお願いしたい。
- 教育関係者もより巻き込んでいってほしい。

～以上～